

「(仮称)にいがた MALUI連携・統合型データベース」

新潟県立図書館

1 デジタルアーカイブの現状と課題

(1) 国内の状況

現在、教育・研究に関わる博物館・文書館・図書館・大学・産業 (MALUI) において、書籍・絵画・古文書・動画・写真・音源などのデジタル化を行い、文化資源化することは喫緊の課題となっている。欧米ではこの領域のデジタル化による文化資源の共有化が、急速に進んでおり、日本の立ち遅れは明らかとなりつつある。

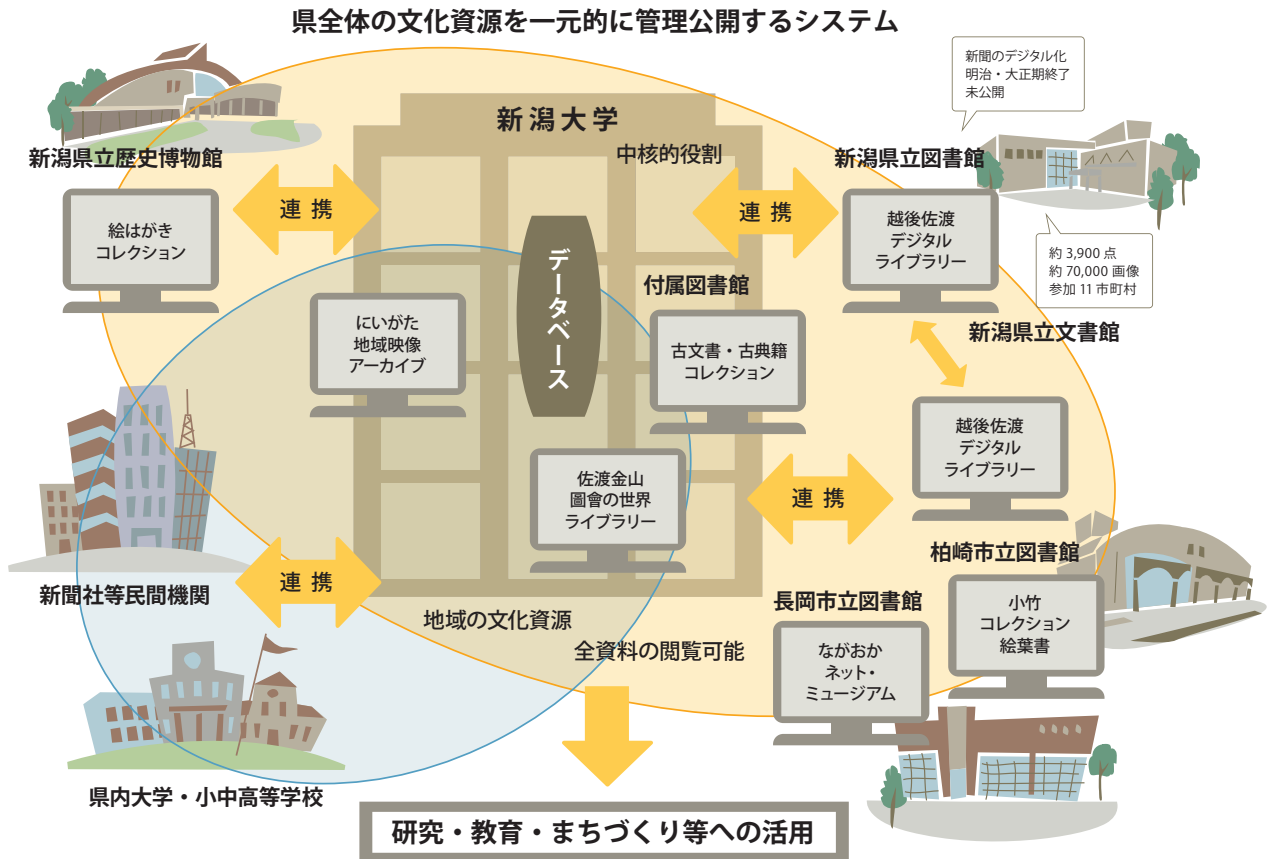
こうした現況を打開することが求められているなか、国立国会図書館は2014年1月21日より図書館向けデジタル化資料送信サービス (図書館送信) を開始した。

従来、国会図書館でデジタル化した資料は国会図書館内だけでしか閲覧できなかった著作権のある絶版資料が、登録した公共図書館、大学図書館内で利用可能になった。

(2) 新潟県立図書館の状況

新潟県立図書館では、デジタルアーカイブ「越後佐渡デジタルライブラリー」により、県立図書館・県立文書館・県内市町村 (図書館・博物館等) のMLA連携に取り組んできている。

にいがた MALUI 連携・統合データベース 概念図



- ▶ この「越後佐渡デジタルライブラリー」の構築は、貴重資料の「保存(原本の劣化や消滅の回避)」と「活用(いつでもどこでも)」を目的とし、構築に当たっての県立図書館・県内市町村(図書館・博物館等)との連携は、「資料の多様性の追求」と「市町村支援」を目的としたものである。

現在、デジタル化した資料は約3,900点、約70,000画像となり、参加市町村も30市町村中11市町村(11機関)となっている。昨年度のトップページのログ(参考値)

は約167万件であり、一日平均約4,500件にのぼっている。

更に、当館では貴重資料にとどまらず、地域新聞のデジタル化も進めている。明治・大正期の新潟県の主要新聞のデジタル化は終了し、昭和初期の新聞デジタル化が現在進行中である。それらのデータは膨大な量にのぼってきており、また、中にはプライバシー問題などのため登録機関を対象とした限定公開が求められるものもある。

2 MALUI連携による統合型データベースの構築による新しい地域連携モデルへの発展

(1) 提案

こうした上記のような試みや課題は新潟県立図書館だけではなく、

- 新潟大学附属図書館
「新潟大学古文書・古典籍コレクションデータベース」
「佐渡金山圖會の世界」
- 新潟大学地域映像アーカイブセンター
「にいがた地域映像アーカイブデータベース」
- 長岡市立図書館
「ながおかネット・ミュージアム」
- 柏崎市立図書館(ソフィアセンター)
「小竹コレクション絵葉書」「地域新聞」
- 十日町情報館
「山内写真館コレクション」
- 新潟県立歴史博物館
「笹川勇吉氏旧蔵絵はがきコレクション」

など、個々の機関で進められ、また課題となってきた。

現在、これらの文化資源活用の効率性・利便性を高め可能性を広げていくために、広く県内全体の文化資源を一元的に管理公開するシステム(MALUI連携による統合型データベース)を構築することが、緊急の課題となっている。しかしながら、この試みは膨大なデータ量を処理する必要があるだけでなく、さまざまな機関が参加する必要がある、また新たなシステムを築く必要がある。

今回、MALUI連携に向けて、新潟大学人文社会・教育科学系附置地域映像アーカイブセンターの「にいがた地域映像アーカイブデータベース」が県立図書館内で閲覧可能となった。今後は、さらに研究・教育機関のみならず新聞社や放送局などにも呼びかけを行い、オール新潟のMALUI連携へと発展させていくことが望まれる。

(2) 期待される効果

構成される資料群は新潟地域の歴史・社会の情報を豊富に含み、文化資源として高いポテンシャルを有している。現在、各機関の窓口またはホームページでしか閲覧できないこれらの資料群を、統合型データベースで一元的に利用することが可能になれば、研究や教育はもとより、地域の文化資源をまちづくり等に生かすなど、現代的な観点からも活用できることになる。

これらの実現により、本県における画期的な研究・教育環境が整備されることになるとともに、ひいては、本県の魅力の発信力向上に大きく貢献していくことにもつながる。■

「県立図書館は、2015年創立百周年を迎えます。」



写真: 明治記念新潟県立図書館(新潟市寄居町)